

## やまびこ

発行日：平成 24 年 10 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

## 医療及び医療安全への患者参加

## ～患者さんと医療者のパートナーシップ～

高山赤十字病院 医療安全推進室 西尾 優

昨今、医療及び医療安全への患者参加の重要性が注目されています。当院では、平成 24 年 6 月 1 日より、大阪大学医学部附属病院と共同で患者参加支援プログラム「いろはうた」を全病院的に取り組んでいます。

「いろはうた」は、2010 年に阪大病院で開発・導入されたものです。医療安全の7つのポイントを、字句及びイラストにより提示した支援ツール（「いろはうた」）を用いて患者説明を行うことにより、医療及び医療安全への患者参加を促進し、その効果を評価するというものです。具体的な7つの句は以下のとおりです。

- い：今いちど 自分の名前を 伝えましょう 〈患者確認〉
- ろ：廊下は意外にすべります スリッパやめて 夜も安心 〈転倒予防〉
- は：歯は外したら 入れ物へ 大事な体の 一部です 〈代替不可用品の紛失予防〉
- に：二度 三度 たずねることも 遠慮なく 治療の主役は あなたです 〈自己決定〉
- ほ：ホッとする 相手に話そう 不安な気持ち 〈信頼できる人への相談〉
- へ：変だな？ と思った時は 確認を くすりは 正しく 飲みましょう 〈服薬管理〉
- と：とつても 大切 次の診察 いつですか 〈自己管理〉

この度、阪大病院より本院用に改編したものをご提供いただき、1年近くにわたり共同で当院への導入・運用方法の検討を重ねました。

開始から4カ月経過し、患者さんからアンケートでは、この取り組みに対して肯定的で継続を望まれるご意見が大多数を占め、患者さんの関心の高さや期待を強く感じています。

今回の取り組みは、病院全職員の取り組みであり、運用（説明）の主体は、看護師ですが、大切なのは、それにこたえる受け皿です。7つの句のそれぞれに、それぞれの職員が、それぞれの立場でこたえて（受け皿）、はじめてこの取り組みの意義があると考えています。

今回の取り組みが、当院において職員全員参加型・患者及びその家族参加型の医療安全文化醸成の契機になればと考えています。



院内ポスターでキャンペーン

## 目次

- |                                    |                                     |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| ● 医療及び医療安全への患者参加 …… 1              | ● 新任医師の紹介 …… 5                      |
| ● 第11回病診連携症例検討会報告 …… 2             | ● 新任研修医の紹介 …… 6                     |
| ● 地域医療連携バス講演会・岐阜県下統一5大がんバス説明会 …… 3 | ● 退任医師 …… 6                         |
| ● キャンサーボードについて …… 3                | ● 平成 24 年度 第 2 回地域医療連携検討委員会の報告 …… 6 |
| ● 研修・講演・勉強会のご案内 …… 3               | ● 編集後記 …… 6                         |
| ● 認定看護師の紹介 …… 4                    |                                     |

## 「嚥下訓練の効果を認めた 反復性誤嚥性肺炎の1例」

耳鼻咽喉科 柴田 博史



高齢化社会に伴い脳梗塞後遺症、担癌状態、重度の糖尿病、認知症などの患者が増加し、経口摂取がうまくできず、肺炎、窒息のリスクを抱えた患者さんも少なくありません。耳鼻咽喉科では、これらの患者さんに対して一般診察、嚥下内視鏡を含めて病態を診断し、治療を行っています。

特に嚥下内視鏡は、嚥下の状態をリアルタイムに評価することができ、またベッドサイドでも評価できる簡便で有用な検査です。評価後、まずは嚥下リハビリ、内服加療など非侵襲的な方法より治療を開始し、必要に応じて胃瘻造設、喉頭挙上術や輪状咽頭筋切除術などの侵襲的な加療を検討しています。

今回は症例提示を通じて嚥下障害治療について説明させていただきます。



嚥下評価は特別な検査器具がなくても、反復唾液飲みテスト(RSST)、3ml水飲みテストなどを用いてある程度判定できます。保存的加療としては嚥下訓練の他に食品ではカプサイシン、薬物ではタナトリンなどのACE阻害薬、漢方では半夏厚朴湯などがあり、これらの薬剤は咽頭知覚改善作用があります。

開業医の先生方にも、嚥下障害で対応に苦慮しておられる患者さんがおられれば、ぜひ当科をご紹介します。

## 「当院での早期胃癌に対する ESDの現状」

内科 牧谷 光晴



現在胃癌に対する治療は、大きく手術、化学療法に大別されますが、極めて早期の胃癌に対しては、手術で胃を切りとってしまうことが過剰な侵襲になることもあり、内視鏡的な手術が標準的な治療になりつつあります。

以前は、内視鏡的に早期胃癌を切除する際には、EMR(endoscopic mucosal resection: 内視鏡的粘膜切除術)という方法が主流でした。この方法は、スネアーと呼ばれる輪っかの道具を使って、病変を締め付けて切りとることになるので、病変が輪っかの大きさ以上になるときりとれないなどの課題がありました。

その課題を克服したのが、最近主流となってきているESD(endoscopic submucosal resection: 内視鏡的粘膜下層剥離術)と呼ばれる方法です。この方法では、電気の針状のメスを内視鏡の先端からだして、病変を見ながら、その下の層を剥離していくことになるため、従来のEMRでは摘出が困難であった比較的大型の病変が摘出できるようになってきています。

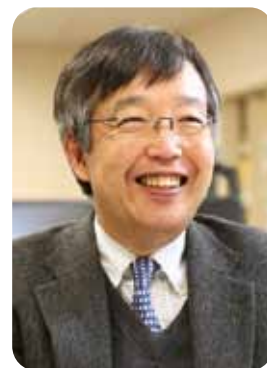
当院では、年間10~20例前後の早期胃癌に対してESDを行っており、今後も開業医の先生方と協力して、早期胃癌の治療を行っていきたいと考えています。

## 地域医療連携パス講演会・岐阜県下統一5大がんパス説明会

平成24年8月24日(金)

### 「地域連携パスの現状と展望」

岐阜大学医学部附属病院 がんセンター  
情報管理・病診連携部門長 白鳥 義宗 先生



がんは現在死因の第1位であり、年々増加の一途を辿っている。一方の医療施設は全体としては増加しておらず、地域によってはミスマッチが生じつつある。これに対して国は、がん対策推進基本計画などを通じて、各がん診療連携拠点病院に対して地域連携クリティカルパス(パス)を義務づけている。パスによって地域でのがん医療の均てん化を行い、がん難民の減少を図ろうというものである。

この取り組みを通じて、それぞれの地域で患者さんをきちんと診療していくためには何が必要で、どこに力点を置いていくべきなのかということは今一度考えていく必要があるのではないかと思います。地域連携パスを使うメリット、統一パスにしていくメリット、そして本当にそのような施策で地域医療のニーズに合うのかどうかを医療の現場から、医療従事者達の知恵を持って考える時期に来ている。

本講演では、岐阜地域での取り組みを例にあげ、他県の取り組みとも比較しながら、地域社会全体を巻き込んだ大きな意味でのチーム医療、これからの地域医療、がん診療を共に考える場としていきたい。

### がんサーボードについて

平成24年7月19日(木)

癌治療研究部(内科) 今井 奨



がんサーボードをご存知でしょうか?がん対策基本法が成立し、当院でも、地域がん拠点病院として、日々スタッフ一同努力しております。ひとえに、がんだけを診る、診断するという、簡単なものではありません。当たり前ですが、人それぞれ、さまざまな社会背景があります。そういった背景を踏まえながら、診療するのは、一人の医師だけでは非常に大変なこと、また、誤った方向性に導く危険性もあります。そこで、多職種で、情報を共有し、話し合い、方針を考えていくというのががんサーボードです。当院でも、毎週外科内科での話し合いの中で検討することをしております。多職種でないために、先日



多職種を交えて行いました。がんに関わることの少ない事務系の方の参加もあり、患者さん目線での意見や、がんの自然死について共有する時間となりました。患者さんが一人で抱えないことはもちろんです。医療者としても一つの命を預かる立場は、非常に重圧のかかることです。こういった場での検討は、情報を共有、共感することにより、今後の診療の糧と、やる気につながる一つの方法です。がんの治療方針でお悩みの際は、一度検討をしてみませんか?

### 研修・講演・勉強会のご案内

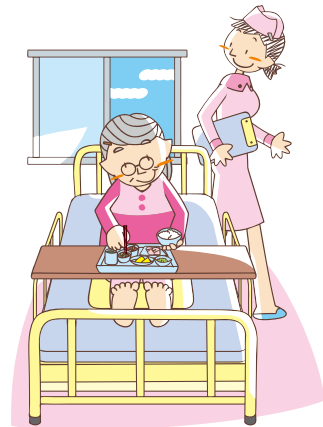
- ・「第4回地域脳卒中連携研修会」H24年11月1日(木) 18:30より 高山赤十字病院 本館3階 小講堂
- ・「東日本大震災を考える」～薬剤師の役割～H24年11月6日(火) 19:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第22回飛騨在宅酸素療法研究会」H24年11月17日(土) 14:00より 飛騨・世界生活文化センター
- ・「地域連携講演会」H25年2月16日(土) グリーンホテル ※詳細は、追ってご案内いたします。

## 認定看護師の紹介

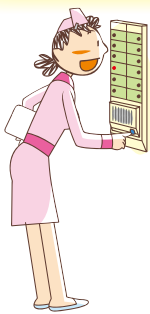
「認定看護師」は日本看護協会が認定している資格制度の1つです。

認定看護師とは、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者をいい、看護現場において実践・指導・相談の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりと質の向上を図ることを目的としています。

この制度は、1997年から始まり、発足時は「救急看護」・「皮膚・排泄ケア」の2分野だったのが、現場からのニーズが出るたびに分野を増やし、2012年には21分野に増えています。



救急看護／皮膚・排泄ケア／集中ケア／緩和ケア／がん化学療法看護／がん性疼痛看護／訪問看護／感染管理／糖尿病看護／不妊症看護／新生児集中ケア／透析看護／手術看護／乳がん看護／摂食・嚥下障害看護／小児救急看護／認知症看護／脳卒中リハビリテーション看護／がん放射線療法看護／慢性呼吸器疾患看護／慢性心不全看護



現在、当院では11名の認定看護師が働いています。

救急看護：1名、皮膚・排泄ケア：2名、集中ケア：1名、緩和ケア：1名、糖尿病：1名、摂食・嚥下障害：1名、認知症：1名、感染管理：1名、がん化学療法看護：2名

今回は、新たに認定看護師を取得した3名の方々を紹介いたします。

他8名については、2011年11月に発行した「診療のご案内 2011年度版」に掲載していますので、ご覧下さい。



### 集中ケア認定看護師 水口 智生

集中ケア認定看護師の役割とは、生命の危機状態にある患者の病態変化を予測し、重篤化を回避するための援助、生活者としての視点からアセスメントおよび早期回復支援リハビリテーションの立案・実施することです。現在は主に呼吸療法サポートチーム（RST）における看護師の活動について試行錯誤しています。これからの展望として当院における看護の質の向上のために現在所属している救命センターだけでなく病棟まで活動の場をひろげ横断的に活動できればと考えています。



### 救急看護認定看護師 久保田 忍

2012年8月に救急看護認定看護師に合格しました。救急看護認定看護師は、救急医療現場において迅速な救命処置が必要な患者さんに適切な医療技術、看護の提供などを行います。また救急外来の緊急度判定（トリアージ）の実施、危機状況にある患者さんや御家族への早期介入および支援。災害時には急性期の医療ニーズに対する看護ケアの提供などが、主な内容になります。救急分野の看護の質向上のため、努力していきますのでよろしくお願い致します。



### 糖尿病認定看護師 芥川 かおり

糖尿病患者は、増加の一途をたどっています。糖尿病は、生涯付き合っていかなければいけない病気であり、患者自身が、生活の中で療養行動を上手に取り入れながら、生活調整をし、合併症への進行を防がなければなりません。私は、認定看護師として、患者さんが、慢性疾患である糖尿病を理解し、生活者として糖尿病とともに、自分らしく人生を歩んでいけるように支援していきたいと考えています。



# 新任医師 の 紹介

- ① 診療科・職名
- ② 氏名
- ③ 専門分野
- ④ 診療に対するモットー  
& 自己紹介 など



10月に6名の医師が赴任しましたので、ご紹介致します。



①内科 医師

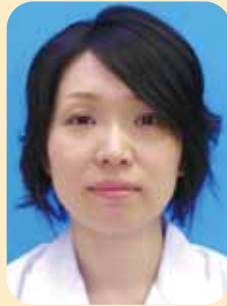
②小原 功輝

(おばら こうき)

③消化器内科

④10月からお世話になっております。

高山の冬が心配ですが、がんばりますので、宜しくおねがいします。



①耳鼻咽喉科 医師

②小原 奈津子

(おばら なつこ)

③耳鼻咽喉科 頭頸部外科

④本年10月よりお世話になっております。

高山の地域医療に少しでも貢献できるようがんばりたいと思います。よろしくおねがいいたします。



①産婦人科 医師

②森 崇宏

(もり たかひろ)

③産婦人科

④10月より産婦人科に配属になりました、森 崇宏と申します。産婦人科医としてまだまだ若輩の身ですが、何卒宜しくお願いします。



①脳神経外科 医師

②山田 哲也

(やまだ てつや)

③脳神経外科

④10月からお世話になります。山田です。

医師になって3年目、脳外科医になって6ヶ月と、まだまだわからないことだらけです。ご迷惑をお掛けしますが、一生懸命頑張りますので、ご指導の程よろしくおねがいします。



①外科 医師

②田中 秀治

(たなか ひではる)

③外科

④平成24年10月より外科に配属となりました。

高山市総和町出身で、高山日赤で産まれました。小学生まで高山で暮らしていたので、とてもなつかしい気持ちです。医療のみならず、1人の人間として地域に密着した、お互いの顔の見える関係を作っていきたいと思っています。ご指導ご鞭撻の程、よろしくおねがいいたします。



①循環器内科 医師

②矢ヶ崎 裕人

(やがさき ひろと)

③循環器内科

④岐阜県瑞浪市出身の矢ヶ崎です。生まれも育ちも岐阜ですが、高山に足を踏み入れたことはなく、今回の赴任で初めて高山を訪れました。広く内科医として見分を広げるため勉強したいと思います。よろしくおねがいします。

## 新任研修医の紹介

10月に1名の研修医が赴任しましたので、ご紹介致します。

- ① 氏名
- ② 出身地
- ③ 興味のある分野
- ④ 診療に対する  
モットー&自己紹介  
など



- ① 小牧 久晃  
(こまき ひさあき)
- ② 岐阜県
- ③ 内科
- ④ 本年10月より2年目研修医として、岐阜大学医学部附属病院のたすきがけ制度で赴任致しました。周囲の様々な職種の方や患者様から常に学び、医師として成長していきたいと思っております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

## 退任医師

内科医師	大西 祥代	9月30日付	外科医師	岩田 至紀	9月30日付
婦人科医師	市橋 享子	9月30日付	歯科研修医	森 みゆき	9月30日付
耳鼻咽喉科医師	柴田 博史	9月30日付			
循環器内科医師	吉眞 孝	9月30日付			

お疲れさまでした

## 平成24年度 第2回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を9月26日(水)に開催いたしました。

地域医療連携検討委員会は、地域医療機関等からの要請に対応し必要な支援を行えるよう審議し定期的に開催される委員会です。

委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携課の現状、今後の講演会・研修会の予定や産婦人科の脇田部長より「地域医療連携の現状と今後について」の報告をして頂きました。

また、意見交換では患者さんの診療待ち時間、医師の当直明けの勤務体制、飛騨地域における医師不足についての意見がありました。

福祉協議会からは、安全を第一に患者に応じた健康作りの教室の紹介や当院からは10月から始まります県下統一5大がん連携パスについて案内をさせていただきました。

## 編集後記

10月に入り少し肌寒く感じ、秋の気配を感じるようになりましたが、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。さて、地域医療支援病院の認定を頂き1年余り経ちました。地域連携課では、地域の医療機関の先生方はもちろん、行政・施設・保険調剤薬局等との連携がスムーズに行くよう、また患者さんに安心して受診して頂けるよう、スタッフ一同頑張りますのでどうか宜しくお願い致します。

地域連携課 牧戸 澄夫



日本赤十字社

高山赤十字病院  
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地  
TEL: 0577-35-1880 FAX: 0577-32-1165  
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp  
ホームページ http://www.takayama.jrc.or.jp/